

教団新報

定価 1部144円(本体133円+共206円)
予約購読料 1年分 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋山 徹
編集主筆 渡邊 義彦
印刷所 株式会社きかんし



ウェスレー合同メソジスト教会
(カリフォルニア・サンノゼ)

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

《ヨハネによる福音書 20章 19～21節》

イースター メッセージ

復活の主は不安と恐れの中

ヨハネによる福音書 20章19～21節



山本 一

命のための行進 ―ヘッドライトの働きを担った高校生

イースター・主の復活をお祝いいたします。
ここアメリカで3月24日に歴史的な「命のための行進が行われました。それは過日、フロリダ州で起こった銃乱射による高校生殺害の事件に端を発した銃規制を呼びかけるものでした。
アメリカでは年間3万5000人が銃によって命を落としていると言われます。その内、子ども及び10代の若者は2500人余りで、これは一日に7人の若い命が銃で命を落としている計算になります(Everytown for Gun Safety Support Fundによる統計)。ここでは子どもたちが、日本という地震の避難訓練のように、ロックダウン訓練と呼ばれる銃をもった人物の侵入に対応する訓練を幼稚園のときから行っています。
このような現実にも依然として銃規制の動きに進展が見られない社会に対して、事件のあったフロリダ州の高校の生徒を人種差別の問題に口をつぐむ人々、とりわけ教会の穏健派の牧師たちに宛てて書かれたものでした。彼は「今の時代、悪意のある人々の嫌な言動

だけでなく、善良な人々の恐ろしいほどの沈黙のために悔い改めなければなりません」と述べ「なぜ教会はヘッドライトよりもむしろいつもテールライトなのですか？」と疑問を呈したのです。
アメリカ社会の闇の象徴とも言える銃の問題、長年解決できないでいる大きな課題に対して、悲しみに憤りを胸に立ち上がった高校生たちの小さな群れは、全米に広がる大きな平和を生み出すムーブメントを引き起こしたのです。彼らはこのアメリカ社会において、まさに闇を照らし、暗い道を切り開くヘッドライトの役割を担っていると感じました。
アメリカには銃だけでなく、大麻、膨大な軍事力と軍事予算、高額医療費、貧富の差の拡大と社会が生み出すいくつかの大きな闇があります。ここに住むまで、そのようなイメージのためにアメリカに対する印象は良くありませんでした。
しかし教団の宣教師として遣わされて4年半が経った今感じるのは、そのような社会の闇がある一方で、このフロリダの高校生たちのように、その闇に対して光を射す

復活の主の励ましを受けて

福音書には復活の主イエスとの出会いの話は実に様々記されていますが、ヨハネはユダヤ人を恐れて扉に鍵をかけて家の中に閉じこもっていた弟子たちの姿を描き、その家の真ん中に立ち「あなたがたに平和があるように」と声をかけ、励まし、この世へと遣わされた復活の主イエスの姿を描きます。それは当時の社会システムの中にあっても、恐れと不安の只中にある小さな群れ(教会)を励まし、立ち上がらせる復活の主がおられるという信仰の証しなのです。
あの2016年末の大統領選挙の日、教会の隣に住むメキシコからの移民の方々がとても心配になりました。彼らの多くは貧しさ、治安の悪さ、命を懸けて亡命してきた人々です。恐れていた通り、選挙の直後、私たちの知人である一人

この世の闇へ

先日「異国の地で神と出会う」をテーマに、ここサンフランシスコ・ベイエリアの教会の日本人の群れ「日本語部」の集会を開きました。そこで日本から渡米してきた日本人がいかに苦しみや葛藤を抱えているかをあらためて知らされました。シリコンバレーの激しい競争の中にあっても孤独に働く会社員、物価が全米一高いこの土地で子育てに苦む若い夫婦、日本人留学生は精神的に病み、自殺する者もある。アメリカで長年忍耐してきた高齢者は晩年、日本食も満足に食べられず、家族のいない高齢者の中には低所得者に入る小さな

私たちがアメリカで日本語を話す教会の群れは、決して大きな群れではありません。また社会のシステムの中にあっても弱り、無力さを感じています。しかし、この小さな群れが今日まで存続してこられたのは、復活のイエスが私たちの只中に来てくださった、私たちを同じ過酷な現実苦しむ人たちのもとへと遣わしてくださっているからだとい

信じるのです。

復活の主は、この世の様々な不安や恐れを抱える小さな私たちを力づけ、この世の闇を照らすヘッドライトとしての働きへと押し出してください。そのことを信じ、このイースター、復活の主イエスの励ましを受け共に世の闇へと力強く出て行きたいと願います。
(教団派遣宣教師/ウェスレー合同メソジスト教会)

お知らせ
「教団新報」今号を4880・81合併号とし、次号は5月26日に発行します。
総幹事 秋山 徹



2018年

春季教師検定試験

83 名受験、正・補教師、転入 67 名合格

テキストに真剣に向き合い、喜びを見出し、語り出すように

2018年春季教師検
定試験が、2月20・22日、
キリスト教会館、早稲田
奉仕園を会場として行わ
れた。初日、筆記試験、
2・3日目、面接試験が
行われた。補教師58名、
正教師21名、転入4名が
受験した。今回、受験生
が多く与えられた。伝道
者が不足している厳しい
状況の中、伝道者として

基本的な神学を身に着けることが求められた。

試験科目は全て基本的な神学を身に着けているかどうかを問うものであった。単なる知識としてではなく、自分の中で咀嚼し、自分の言葉で表現出来る程に身に着いているかが問われた。しかし、多くの受験生が、基本的

な神学が身に着いていない結果が現れた。「旧新約釈義・説教」はテキストの掘り下げが不十分であり、説教の聴き手の現実が見えていなかった。「旧約・新約聖書神学」は日々聖書に親しんでいるかどうかが問われたが、不十分であった。「教会史」は教会史において起きた出

「教憲教規」は教会の具体的な問題を教憲、教規、宗教法人法に則って、どのような手順で進めて行くのが身に着いていなかった。

伝道者が身に着けるべき神学は多岐に亘っている。それだけに、忙しい教会・伝道の中にあっても日々神学を学び続ける

使用する。そのために、教団の教師は神に召され正規の手続きを経て献身した者である。正教師は按手札を領した者、補教師は伝道の准允を受けた者であり、聖礼典は按手札を領した教師がつかさどる。

「東日本大震災被災教会会堂等再建支援募金」に
「東日本大震災被災教会会堂等再建支援募金」に
2010 総会期第 4 回常議員会にて、201
しました。引き続きご支援をお願い
教団総会誌

2018年度春季教師検定試験が2月20日から22日にかけて行われました。

がテキストから受け止めた福音が説教者自身の言葉で語り尽くされていない説教が多くありました。与えられたテキストに真剣に向き合い、喜

春の試験は和教皇の受験が主となりますが、今回の試験は教団会議室だけでは間に合わないほど多くの受験者が与えられました。教会に仕える者がたくさん与えられることは本当に嬉しいことです。

提出試験としての説教について言
えば、聖書の説明に終始し、説教者

第40総会期 教師検定委員長 服部 修

2018 年春季・補教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法
(60 分) (A, B, C Ⅲ)
次の 2 題に答えてください。

1. 日本基督教団は教師を「正教師」「補教師」と分けています。その違いを、教憲および教規より必要な条項およびその内容を明示し説明してください。
2. 宗教法人である教会は何によって運営されなければならないでしょうか。宗教法人の目的を明らかにしながら、必要な条項およびその内容を明示し説明してください。

旧約聖書神学 (60 分) (B, C Ⅲ)
次の 3 つの語句について 2 つを選んで説明してください。

1. 除酵祭の規定
2. 逃れの町
3. 第二神殿

新約聖書神学 (60 分) (B, C Ⅲ)
次の 3 題のうち 2 題を選んで新約聖書のテキストをいくつか挙げつつ、答えてください。

1. 新約聖書において「平和 (εἰρήνη)」はどのような意味を持つか、論じてください。
2. 律法に対するイエスの態度について、論じてください。
3. 先在のキリスト論について、論じてください。

この数年の傾向として、他教派からの転入志願者が増えている。それでも、何故、教団の教師となるのかが問われたが、その召命が不十分な志願者もいた。試験終了後、Cコース受験志願者認定面接を行い、3名の志願者があった。それぞれが職を持ちながら伝道者としての召命を受け、Cコースの受験に臨もうとしている。3名とも明確な召命を与えられ試験に臨もうとしていた。主が様々な場所で様々な人を伝道者として召してくださっておられる、主の御業に触れ、畏れと感謝を覚えた。

熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金
(2016.4.18～2018.3.31 現在)

教区	献金額	教区	献金額
北 海	1,200,512	東 海	4,338,696
奥 羽	1,104,486	中 部	6,250,365
東 北	1,261,808	京 都	1,297,257
関 東	10,401,415	大 阪	5,727,420
東 京	23,998,683	兵 庫	3,348,806
東 京・東	5,102,755	東 中 国	795,420
東京・西南	8,975,166	西 中 国	910,649
東 京・南	2,244,244	四 国	2,427,806
東 京・北	2,606,084	九 州	32,608,704
東京・千葉	5,070,434	沖 縄	431,051
西 東 京	7,551,334	個人・他	9,431,071
神 奈 川	7,626,932	海 外	3,670,520
単位：円	総合計		124,382,935

「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」延長のお願い

「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」にご協力くださり
感謝いたします。

以下のように40総会期第4回常議員会にて、2019年3月31日までの延長を決定しました。引き続きご支援をお願いいたします。

教団総会議長 石橋秀雄

議事30 熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金に関する件

提案者 議長

熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募
金を、1年間(2018年4月1日～2019
年3月31日)延長する。

提案理由

39 総会期第8回常議員会(2016年8月30日)において、熊本・大分地震被災教会支援に関して、熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金の開始を可決した。その際、同募金の期間は、「2年間(2016年4月15日～2018年3月31日)」とした。

しかし、熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会よりの報告によると、1月24日現在の同募金総額は1億841万9201円であり、目標額の1億8000万円には至っていない。

そのため、同募金をさらに1年間延長しようとするものである。

《宗教改革 500 周年記念事業》
リフォユース 500

ユースカンファレンス 青年大会



青山学院に青年集う

3月21日、青山学院大
学カウチャー記念礼拝堂
を会場に、宗教改革50
0周年記念事業の最後の
行事として、日本基督教
団主催の青年大会「リフ
オユース500ユースカ
ンファレンス」が開催さ

れた。

教派を超えて、教団が
加盟しているNCC系、
JEA（福音派）系、J
PN（ペンテコステ派）
系の諸団体にも呼びかけ
がされた。

大会当日は、雪交じり
というあいにくの天候で
あったが、教団からの参
加者約200名を含む1
000人以上の若者を中
心とした参加者が集めら
れ、教団主催の青年大会
としては稀にみる大規模
な大会となった。また、
当日の様子はインターネ
ットを通してライブ配信
され、常時100人を超
える人たちが視聴した。
学食には20を超える協賛
団体のブースも用意さ
れ、参加者の交流の場と
もなった。

1000人を超えて集う大会に

当日のプログラムは礼
拝形式で進められた。大
会のために青年有志によ
り結成された100人ゴ
スペルチームによる賛
美、関野和寛牧師（日本

福音ルーテル教会ルーテ
ル東京教会、晴佐久昌英
神父（カトリック上野・
浅草教会、大嶋重徳牧師
（キリスト者学生会KG
K総主事）、小林克哉牧師

（日本基督教団呉平安教
会）という4人の説教者
が立てられ、東京山手教
会で開催された前夜祭で
演奏したクリスマスチャン
パンド「ナイトdeライト」
を含めたバンドスタイル
による賛美リードによる
会衆賛美が、各説教者の
説教の間に捧げられた。

礼拝の途中には、クリス
チャンバンドである「サ
ルーキー」の演奏もあり、
盛りだくさんの内容で礼
拝が捧げられた。
後日、このような大会
の継続の必要性が確認さ
れ、準備委員会は解散と
なった。
（小林信人報）

◆2018年宣教師会議◆

広島にて「本当の平和への道」を主題に開催

3月14～16日、広島教
会を会場にアメリカ、オ
ランダ、カナダ、南アフ
リカ、韓国、台湾、香港

が落ちたことは恵みだっ
た」と語ったという話が
特に出席者の関心を集め
た。この牧師も原爆で娘
を亡くしている。その言
葉の意図は、また神の恵
みとはいったい何なのか。
北森嘉蔵牧師の「神の
痛みの神学」について

初日は会場となった広
島教会の武田真治牧師を
通して御言葉に与りつ
つ、開会礼拝が捧げられ
た。今年の主題は「本当
の平和への道」ヨハネ14
章27節」。

2日目は広島教会会員
の山崎敦子氏から被爆体
験を聞いた後、日本語、
英語、韓国語、中国語等
の言語別に分かれ、シェ
アリングの時間がもたれ
た。証しの中で、かつて
広島教会におられた牧師
が説教中に「広島に原爆

に導き出すべきではない
こと、神の時等について、
異なる背景を持った国々
から遣わされている宣教
師たちだからこそ、お互
いの歴史観、考え方の違
いも認識しつつ、真剣に
語り合った。

部も各支区各部との連絡調整
と教区としての課題を担うた
めに活動しています。各委員
会も各支区を通して各教会
へ、また各教会から支区を通
して教区へとの関係を維持し
ています。その解決のため、ま
ず教団台湾協約委員会から要
請のあった教区内の高田馬場
台湾教会、池袋台湾教会、千
葉台湾教会、西東京教区の東
京台湾教会の累積未納負担金
免除を承認しました。また年
度報告書未提出教会の負担金
を再計算し、減免措置を実施
することを承認しました。い
ずれも過大となった未納負担
金の解消に向けて、教会、支
区、教区の関係をよりよくす
るためです。そして各教会の
伝道と運営の妨げにならない
よう願うことです。
（東京教区議長）

そして原爆の悲劇、こ
の地に住む人々が負わさ
れた痛嘆や苦悩に思いを
馳せ、次の世代に平和を
受け渡していくことの重
切さ、悲劇を経験した
人々に「神の恵み」を伝
えていく難しさを改めて
覚えた。

3日目は逝去宣教師追
悼式でベティ・ウル
クハート、アルトマ
ン由紀子、ジエイムズ
・リード、バーカー清
子の各宣教師を憶
え、2017年度で
退任する川野真司宣
教師、カレン・ストラ
イドム宣教師へ教団
からの感謝を表し、
閉会礼拝をもって恵
みの内に終えた。
（西之園路子報）

教区議長コラム

◆ 東京教区 ◆

岸 俊彦

千葉の五支
区を置き、
各支区が支
区内諸教会
の連帯をは
かりながら
伝道に励ん
でいます。

は、東支区の伊豆諸島の教会、
千葉支区の千葉県農漁村地域
にある教会が属しています。
両支区を通して関係維持

東京教区と五支区

教団信仰告白を奉じ、教憲、
教規を遵守することを基本方
針に、五支区の一致をはかり、
支区相互の情報交換や教区活
動への協力をお願いするた
め、教区五支区長会を置いて
います。

教区には教区総会未開催時
以来の負担金等未納問題があ



（西之園路子報）

消息

川端由喜男氏（隠退教師）



18年3月2日逝去、94
歳。東京都生まれ。50年
東京基督教神学専門学校
卒業。同年より二宮、国
府、信愛、清瀬信愛教会
を牧会し、94年隠退。遺
族は娘・秋元慈子さん。

事務局報

正教師転入
井垣勝男、垣内尚美、
山内慎也、山本克三
（第4回常議員会付託三
役会承認）

公告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥
に基づき、同規則第3条6号対象者所謂Cコー
ス受験者に対する認定面接を左記のように実
施します。2019年春季試験以降に新たにC
コース受験を志願される方は、本委員会の指定
した書類を2018年7月20日（金）までにご提
出いただき、左記日程の面接にご出席ください。
なお、面接要領・提出書類用紙については、百円
切手を同封の上、本委員会事務局に直接お申込
みください。

★認定面接
日時 2018年9月13日（木）15時～（予定）
場所 大阪クリスチャンセンター

なお、認定面接予定者には、書類受付後、案内
通知を送付します。

2018年4月21日
日本基督教団教師検定委員会
〒169-00051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
電話 03-3202-1054 6

2018年度「教師継続教育研修会」開催案内

2018年より、教師委員会の主催で、准允後10年までの教師を対
象とした研修会を、下記の要領で実施します。

- ◎名称 2018年度教師継続教育研修会
- ◎主題 「説教と牧会～福音を伝える喜び」
- ◎日時 2018年8月21日（火）14時～23日（木）12時
- ◎場所 ハートピア熱海（〒静岡県熱海市伊豆山 717-18）
- ◎参加対象 准允後10年までの教師、他教派から転入し10年ま
での教師、その他教師委員会が承認した者
- ◎内容
講演1 須田 拓（橋本教会牧師・東京神学大学准教授）
講演2 柳下明子（武蔵野緑教会牧師・日本聖書神学校教授）、他
- ◎参加費 2万円
- ◎交通費援助 1万円を超えた分を援助します。
- ◎申込み方法 下記問い合わせ先に連絡してください。開催要項・
プログラム・申込書を送ります。申込み事項を記入の上、7月12
日（木）までにお申込みください。

2018年4月21日

日本基督教団教師委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 (TEL 03-3202-0546)



(上) 筆者
(左) 教会員と共に

今年3月11日は、司会者と牧師が東日本大震災を覚えて祈り、続いて出席者も同じ思いをもって礼拝をさげました。教団及び関東教区から支援金を受けたことに感謝し、同時に同じ被害に遭われた東日本の地と、そこにある教会との連帯の思い

を深める礼拝でもありました。わたし自身は佐野教会に赴任してまだ2年目で、震災を経験していなかったのですが、当時の支援金額や、その用途について役員の方に尋ねた結果、次のような報告を受けました。「外壁塗装工事、落下した2階天井の修理、礼拝堂及び休憩室の床の張替え、クロスの張替え」など。こうして新しく出発したわたしたちの教会は、小さな群れですが、栃木地区の諸教会の祈りと具体的なお支えを

もいたっていて、希望をもって前に向かい進ませていただいております。このこともまた、感謝です。昨年のクリスマスには、ひとりの洗礼者が与えられました。わたしの娘で、心の病を持っておりませんが、佐野教会の婦人会の方々の暖かい見守りによって、聖餐に与り、教会生活を楽しんで送っています。わたしたちの教会では礼拝後、毎週、愛餐の時をもっています。心のもった手作りのおいしい料理をいただくことも、彼女にとっ

てはこの上ない楽しみのようです。伝道活動の基本方針として、2018年度は使徒言行録から「この町には、わたしの民が大勢いる」(18・10)という言葉を与えられました。これはパウロがコリント教会の伝道に先立って、彼のうちに語りかけられた主の言葉です。これによってパウロは1年半、コリントにとどまって人々に神の言葉を説教しました。わたし自身も教会員とともに、この御言葉に押し出され、秋にはひとりの著名なチェロ奏者をお迎えして、佐野教会では初めてのコンサートを持つことを志しております。現在、佐野の市民合唱団に入

って第九の演奏会にも出演したりしているのですが、コーラスの方々にもこの教会コンサートの呼びかけを今、始めています。佐野教会にはかつて「みくに幼稚園」という付属幼稚園があったのですが、子供の減少や運営の困難さに伴って、かなり以前に閉鎖となりました。しかし合唱団のメンバーの中には、「わたしも子供のころ、みくに幼稚園の園児でした」「園庭に藤棚のあった幼稚園が懐かしい」「キリスト教の雰囲気が好きだった父と一緒に遠くから通いました」という声をたくさん聞いています。その意味で、教会幼稚園・保育園の伝道する役割を、改めて見直し、その働きの「すそ野」の広さに共に気付いてまいりましょう。

「この町には、わたしの民が大勢いる」との、この御言葉の確かさを今、真摯に感じさせられています。そして主の御心であるならば、「この町に大勢いるわたしの民」の「絆」が、再び教会の中に生まれることを今、幻に描いています。そして被災地の教会にも、この「絆」が再び、力強く、結ばれることを信じて祈らせていただいています。

2月25日、ニューヨーク北部にあるユニオン日本語教会において上田容功宣教師の派遣式・牧師



高井ヘラー由紀宣教師(中央)

*

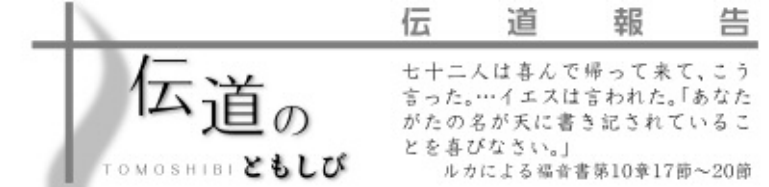
2月11日、大船教会において高井ヘラー由紀宣教師派遣式が行われた。高井氏は3月に台湾へ行き研究に従事した後、9月から台南神学院に信徒宣教師として赴任する。高井氏は台湾キリスト教史を専門としており、特に日本統治期台湾の日本人プロテスタント教会の歴史を研究している。派遣地である台南神学院は、戦時期1940年7月に日本政府が発令した各学校校長を日本人とする命令を拒否した。台南宣教師会が閉校を選んだのである。

この神学校に教団から宣教師を派遣する。これは、宣教師協約前文にある「日本が台湾を統治していた時代の教会の過ちを神と人の前にさげしつ、(中略)相互に交わりを深め協力し合う」ことを目指す宣教師協約実践の一步となると考える。

就任式を行った。通常、派遣式は日本で行うが、上田宣教師がニューヨーク在住であるため、今回は派遣式・牧師就任式を同時に行った。ユニオン日本語教会は日本人特別牧会・S M J (Special Ministry to Japanese) の働きから生み出された教会で、現在、現任陪餐会員2名、準会員2名の小さな群れである。会場を提供してくれているヒッチコック長老派教会やU M C、R C Aのそれぞれの教区から援助してもらって活動が支えられている。

ヒッチコック教会の伝道活動の中に英語を母国語としない人を対象にしたリビング・イン・アメリカという英会話クラスがある。クラスには毎週70名が参加し、日本人も多くいる。上田宣教師も参加の機会が与えられ、周囲の日本人にユニオン日本語教会の存在を知ってもらうためホームベーパーでもリニューアルして励んでいる。(廣中佳実・加藤誠報)

静岡教会に赴任してちょうど10年が経った。時の経つことの速さを思い、様々な事柄に思いを巡らせている。その中で、驚かされた一つの恵みがある。この10年で静岡教会は同じ葵区にある教団の三つの教会全ての歩みに関わらせて頂いたのである。二つの教会の代務者を担い、一つの教会の礼拝説教を毎月第一主日に担当した。当然その交わりは、教師だけでなく教会全体に及んでくる。これまで同じ分区的交わり、同じ地域の教会としての交わりはあった。しか



この町には、わたしの民が大勢いる

関東教区・佐野教会牧師 石川 榮一

を深める礼拝でもありました。わたし自身は佐野教会に赴任してまだ2年目で、震災を経験していなかったのですが、当時の支援金額や、その用途について役員の方に尋ねた結果、次のような報告を受けました。「外壁塗装工事、落下した2階天井の修理、礼拝堂及び休憩室の床の張替え、クロスの張替え」など。こうして新しく出発したわたしたちの教会は、小さな群れですが、栃木地区の諸教会の祈りと具体的なお支えを

もいたっていて、希望をもって前に向かい進ませていただいております。このこともまた、感謝です。昨年のクリスマスには、ひとりの洗礼者が与えられました。わたしの娘で、心の病を持っておりませんが、佐野教会の婦人会の方々の暖かい見守りによって、聖餐に与り、教会生活を楽しんで送っています。わたしたちの教会では礼拝後、毎週、愛餐の時をもっています。心のもった手作りのおいしい料理をいただくことも、彼女にとっ

てはこの上ない楽しみのようです。伝道活動の基本方針として、2018年度は使徒言行録から「この町には、わたしの民が大勢いる」(18・10)という言葉を与えられました。これはパウロがコリント教会の伝道に先立って、彼のうちに語りかけられた主の言葉です。これによってパウロは1年半、コリントにとどまって人々に神の言葉を説教しました。わたし自身も教会員とともに、この御言葉に押し出され、秋にはひとりの著名なチェロ奏者をお迎えして、佐野教会では初めてのコンサートを持つことを志しております。現在、佐野の市民合唱団に入

って第九の演奏会にも出演したりしているのですが、コーラスの方々にもこの教会コンサートの呼びかけを今、始めています。佐野教会にはかつて「みくに幼稚園」という付属幼稚園があったのですが、子供の減少や運営の困難さに伴って、かなり以前に閉鎖となりました。しかし合唱団のメンバーの中には、「わたしも子供のころ、みくに幼稚園の園児でした」「園庭に藤棚のあった幼稚園が懐かしい」「キリスト教の雰囲気が好きだった父と一緒に遠くから通いました」という声をたくさん聞いています。その意味で、教会幼稚園・保育園の伝道する役割を、改めて見直し、その働きの「すそ野」の広さに共に気付いてまいりましょう。

「この町には、わたしの民が大勢いる」との、この御言葉の確かさを今、真摯に感じさせられています。そして主の御心であるならば、「この町に大勢いるわたしの民」の「絆」が、再び教会の中に生まれることを今、幻に描いています。そして被災地の教会にも、この「絆」が再び、力強く、結ばれることを信じて祈らせていただいています。

2月25日、ニューヨーク北部にあるユニオン日本語教会において上田容功宣教師の派遣式・牧師

静岡教会に赴任してちょうど10年が経った。時の経つことの速さを思い、様々な事柄に思いを巡らせている。その中で、驚かされた一つの恵みがある。この10年で静岡教会は同じ葵区にある教団の三つの教会全ての歩みに関わらせて頂いたのである。二つの教会の代務者を担い、一つの教会の礼拝説教を毎月第一主日に担当した。当然その交わりは、教師だけでなく教会全体に及んでくる。これまで同じ分区的交わり、同じ地域の教会としての交わりはあった。しか

宣教師派遣式



上田容功宣教師(中央)



佐々木京子さん

新しいぶどう酒は、新しい革袋に



宮古教会員。奥羽教区教会婦人会連合委員長。元ひかり幼稚園園長。

時間が佐々木さんに与えられていけばいいと思っていた。しかし、多くの方々が当地まで訪ねて来てくれた中で、恵みを実感した。諸教会の交わりの中での信仰生活にも目覚めさせられた。そうした中から、新たな務めを担う勇気が与えられたのだ。決して教会婦人会連合の活動に積極的であったわけではない。鄙から出て来た者にとって、中央委員会に出席するため上京するだけでも戸惑うことが度々起こる。それでも多くの皆さんに支えられて、与えられた新しい務めに、喜びをもって仕えている。

共に歩む教会と伝道

し、共に歩む教会という意識と自覚が育っていたわけでは無い。一定の人口を抱える市街地に立つ教会であるから、自教会重視の在り方が先行していたと

教会の働きを覚えて祈ることが始まった。共に歩む分区的交わりが内容の濃いものとして受けとめられるようになった。何よりも信徒の交わりが喜びに満ちたものとして受けとめられている。同じ地域に立つ教会として、互いを主にあって喜べる交わりは素晴らしいものである。教団の伝道が各個教会の交わりの中で強められ、進められていることを、かつて長く働いた香長伝道園に続いて見せて頂き、主に感謝を捧げている。(教団総会副議長 佐々木美知夫)